

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：文学と芸術
 部会長名：木下資一
 作成者名：木下資一

概要（2000 字）

平成 20（2008）年度の「文学と芸術」部会には、人文学研究科 8 名、国際文化学研究科 6 名、人間発達環境科学研究科 11 名、計 25 名の教員が所属し、前期 12 コマ（夜間 1）（人文学－3 名、国際文化－6 名、人間発達環境科学－3 名）・後期 12 コマ（人文学－4 名、国際文化－6 名、人間発達環境科学－2 名）の共通教育授業を担当した。

その内訳は、下記の通りである。

（夜間主コースは、文学と芸術を隔年開講し、当該年度は芸術科目を開講）

前期 伝統芸術－3 コマ 芸術と文化－2 コマ 文学と芸術 A－1 コマ（夜間）
 言語と文化－1 コマ 日本の文学－4 コマ 世界の文学－1 コマ

後期 伝統芸術－3 コマ 芸術と文化－2 コマ
 言語と文化－2 コマ 日本の文学－3 コマ 世界の文学－2 コマ

三研究科から共通教育担当者が出ることにより、加えて受講人数制限により、旧教養部時代、大学教育センター時代に比して、文学・芸術系授業科目のバラエティーが豊かになり、受講人数も授業によっては教室に入りきれず、立ち見が出るといった、劣悪な教育環境は改善されたといえる。文学や芸術の教養は、人間らしい生活を送るための心の糧として、かけがえのないものである。望蜀の嘆かも知れないが、可能ならば、更に担当者を増やし、百数十名を超える講義授業ばかりでなく、少人数学生対象の演習形式授業などができれば、一層の教育効果が望めるのではなかろうか。更に美術館・博物館見学や祭祀行事への参加などフィールド型授業ができるような環境を整えば、一層の教育効果が見込めよう。

授業内容については、シラバスや各授業担当者からのアンケートから見て、各担当者はそれぞれの専門分野を踏まえ、学生が興味を持ちやすいテーマを設定し、また最先端の研究成果を織り交ぜながらの授業を工夫しているといえる。視聴覚機器の利用などは、教員アンケートによれば、殆どの教員が積極的に活用している。

教育効果についてのフィードバックは、試験結果と学生による授業評価アンケートがあるが、後者については書き込みのサンプル数が少なく、偏りが出る可能性がある怖れもある。試験結果から見る教育効果については、殆どの担当者がアンケートにほぼ狙い通りの効果があったことを記している。

本年度末に開催した部会総会で問題提起された改善点としては、視聴覚機器の故障・未整備についての苦情が多かった。特に芸術科目を担当する先生方にとって、オーディオ機器や DVD 機器、また映写装置などが完備され、かつ十分な品質なものでなければ、狙いとする教育効果が得られないことになる。厳しい予算環境にあることは理解できるが、当局には優先的配慮をお願いしたい。パソコンを利用した授業を検討している先生からは、パワーポイントの映写装置の整備に加え、LAN 接続の希望もあった。

また学生のマナーに関する問題も提起された。特に単位不認定がそのまま留年につながる学部で目立つこととして、土下座をする学生や執拗な要求をする保護者の存在などが話題となった。学生や保護者の意識変革を求めたい。教員と学生の関係が、信頼と敬愛を基盤にした人間的「師弟関係」から、そのような基盤が喪われた「教育サービス提供者と享受者」といった経済行為的ドライな関係になっているとすれば、学生・保護者のクレーマー化もあり得るかもしれない。「授業評価」がそのような潮流に荷担しないよう留意したい。

様式 2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況) になっている。

根拠資料

全教員のシラバスおよび教員アンケート (回収率 67%)

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況) になっている

根拠資料

教員アンケート (回収率 67%)

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況) 大多数の教員が配慮している。

根拠資料

教員アンケート (回収率 67%)

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況) 受講者数が多数であり、講義形式の授業しか行われていない。その制限の中で、視聴覚機器を利用した授業は多くの教員が行っており、TAも活用されている。ただし TA 予算は不足し、要求数の 4 割程度しか配当されていない。

根拠資料

全教員のシラバスおよび教員アンケート (回収率 67%)

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況) 組織的には行われていない。しかし、少なからぬ教員が数回の小テストを実施、課題レポートを課すなど、各自の努力・工夫による配慮をしている。

根拠資料

教員アンケート (回収率 67%)

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況) 適切に実施されている

根拠資料

教員アンケート (回収率 67%)

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況) 上がっている

根拠資料

教員アンケート (回収率 67%)

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況) どの教員も学生からの質問に誠実に回答している。オフィスアワーについては、シラバスに研究室を記している。

根拠資料

シラバスおよび教員アンケート (回収率 67%)